

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		放課後等デイサービスとらいあんぐる		公表日		2026年2月24日	
		チェック項目		はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点
		環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。		6	
2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。		6		必要人員に加え、経験5年以上の児童指導員及び専門的支援員を配置して手厚い支援を目指しています。また、昨年、男性職員を新たに採用して手薄であった同性介助の比率を向上させました。	こどもの状態と建物の構造を加味したときに職員が手薄と感ずることがあったので、事業所を新築移転することで死角をなくしました。また、約1年前より職員の支援の効率化を目指して日々改善に取り組んでいます。	
3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。		6		部屋の壁紙を色分けすることで、部屋ごとに意味を持たせ構造化を図っている。カードを使用したり導線をよくすることで情報を伝えやすくしている。	建物が古くバリアフリー化ができていませんでしたが、新築移転することでバリアフリー化を実現しました。今後は新しい間取りを最大限活用できるように支援時の職員のコミュニケーションを向上させていきたい。	
4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。		6		子どもたちの活動に最大限配慮した空間を作るために昨年新築移転しました。作業道具、玩具等を整理し、最適化することでスペースを確保し、心地よい環境を整えています。	様々な特性を持つ子どもたちがいますので、空間を作るだけでなく、子どもたちの満足度を上げるために日々職員間で意識して新たな空間づくりしていきたい。	
5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。		6		大集団で活用するメインルームと小集団で活用するサブルーム2部屋を用意している。		
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。		6		常に業務改善を進めることができる組織になるために全職員がPDCAサイクルを意識している。	新たな取り組みに際し「できない理由を並べる」のではなく「できるための知恵をだす」組織を目指していきたい。
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		6		評価表を業務改善につなげるべく、事業所内で特命チームを立ち上げ課題の抽出から改善策の検討を行っている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。		6		ひと月に1回の職員会議及び毎日のミーティングで意見交換している。毎日の朝礼や事前ミーティングでも情報共有を行っている。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。		1	5		現在、第三者による外部評価を行うことができていない。今後の課題としたい。
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。		6		外部研修（強度行動障害支援者養成研修）を受講し、職員の共通認識を深めています。また、外部から講師を招いての内部研修も定期的を実施しました。	専門機関での教育を受けた職員がいないために継続して外部研修及び内部研修の機会を設けていきたい。
適切な支援の提供	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。		6		ホームページ上で公表していますが更に視認性をよくするためにホームページをリニューアルし理解いただきやすくなりました。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。		6		個々にスキルシートを作成し、半年に一度見直しを行って、それに基づき支援計画を作成している。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。		6		放課後等デイサービス計画を作成する際には、事前に支援計画作成会議を実施し、こどもに携わる職員全員が極力参加するようにしている。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。		6		支援計画作成後は職員に周知し、事前ミーティングで確認するよう心掛けている。	支援計画作成後の情報共有の方法及び能動的に職員が支援計画を確認する機会が少ないことに課題がある。改善を図っていきたい。
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。		6		半年に一度、スキルシートの見直し、日常で気になる点はミーティング等で確認を行っている。また、クラウドサービスを活用して情報の共有化を図っている	

適切な支援の提供	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	4	2	5領域を意識して「本人支援」の計画を立てています。また、「家族支援」についても積極的に取り組んでいます。	「移行支援」及び「地域支援・地域連携」に課題があると認識しています。今後、重点的に取り組んでいきたい。
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	5	1	毎月、全常勤職員が参加しプログラム会議を行っている。	一部の職員に発言が偏る傾向があることに課題があります。各職員が自身の案を持ち寄り活発な議論ができる会議を目指したい。
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	5	1	週ごとの異なるプログラムや季節ごとの行事を取り入れることでプログラムが固定化しないようにしている。	集団プログラムではある程度固定化することはあるが、繰り返しの経験によって成功体験を積み上げることを目指している。
	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	6		日々のプログラムの中に集団活動の時間と個別活動の時間を設定しています。集団活動も各人に対応して大集団や小集団に分けています。	
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	6		当日の支援前にミーティングを行い、プログラム、担当、支援内容の確認をしている。	
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	2	4	当日での振り返りはできていないが、次の日の朝礼や事前ミーティングで振り返りを行い共有化を図っている。	即時に共有が必要な場合には社用スマートフォンを活用したSNSグループで共有を図っている。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	5	1	クラウドサービスを利用して情報の共有化を図っている。	タイムリーな入力に課題があるために職員同士で毎日の声掛けを実施し意識改革を推進している。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	6		最長6ヶ月に一度はモニタリングを実施して、支援計画の見直しを行っている。	
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	3	3	①日常生活の充実と自立支援のための活動 ②多様な遊びや体験活動 ③地域交流の活動 ④こどもが主体的に参画できる活動 上記の4項目を複数組み合わせることで活動の幅を広げるよう努めている。	特に「地域交流の活動」に課題がある。そこで、移転に伴い行った内覧会への近隣住民の招待、近隣住民に協力いただいで実施したハロウィンイベント、地域秋祭りへの参加等を企画しました。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	6		制作活動で選ぶ、おやつを選ぶ、お買い物で選ぶ等身近なところから自己決定できる支援を心掛けている。	
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	6		直接支援に関わっている児童発達支援管理責任者や担当者が対応している。	
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	4	2	発達障害者支援センターに来所いただいたの事例検討会、特別支援学校を定年退職された元教員を招待しての勉強会等を実施。	保健機関、医療機関等との連携に課題がある。今後、検討していきたい。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	6		学校との情報共有のためメーリングリストへの登録を実施している。また、学校送迎時や保護者を通して情報共有している。	
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定子ども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	1	5		情報共有が出来ていない所が多い。今後相互理解に努めたい。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	1	5		積極的な働きかけができていない。今後、検討していきたい。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	3	3		現在は行えていないが、こども発達支援センター「という」様と連携を図るために具体的な日程調整を行っています。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	2	4		放課後児童クラブや児童館との交流は行えていない。現在、地域の他のこどもと活動する機会の検討を職員間でしている。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。		6		現在、自立支援協議会等へは参加できていない。活動案内は職員に周知している。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	6		送迎時に出来るだけ詳しく伝えあえるよう保護者の方との関係づくりに努めています。	

	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	1	5		現在、ペアレント・トレーニングは実施できていない。 今後、検討していきたい。
保護者への説明等	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	6		契約時の説明と年度初めに変更点、留意点等についてお報せを配布しています。 また、独自に料金表を作成し改定がある度に案内をしています。	
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、子どもや保護者の意思の尊重、子どもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、子どもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	6		最低半年に一度は面談または電話にて保護者とのモニタリングを行って意向を確認しています。	子ども（本人）の意向の確認に課題があります。今後の課題として認識したい。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	6		「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ている	
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	6		定期的なモニタリングに加え、ご家族から要望があれば極力事業所に来所していただき助言と支援をする機会を設けています。	
	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。		6	事業所のイベントにご家族で参加してもらうことで、わずかですが交流の場を設けています。	現在、父母の会の活動支援や保護者会等の開催はできていない。 今後、検討していきたい。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	5	1	苦情窓口を設け保護者に開示している。	職員一人ひとりが当事者意識を持って対応できる組織を目指したい。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	6		閲覧規制をかけたブログやFacebook等で活動の様子を発信している。また、SNSグループを活用することで情報発信や連絡体制を整えている。	ホームページでの情報発信に課題があったために全面的にリニューアルを実施し、活動概要や支援方針が明確に伝わるようにしました。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	6		非常勤職員を含め、主要な職員にスマートフォンを配布することで個人スマートフォン等からの個人情報流出を防いでいる。	利用者様との連絡はSNSでグループを作って行い、個人的な連絡をなくすることで職員間の情報共有を行っている。
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	6			
45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。	6		移転に伴い行った内覧会への近隣住民の招待、近隣住民に協力いただいて実施したハロウィンイベント、地域秋祭りへの参加等を実施しました。		
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	6		保護者を巻き込んだ避難訓練を定期的実施している。	
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	6		水害、地震、火災を想定した訓練を計画的に実施しています。	
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	6		保護者と服薬や発作時の状況の情報を共有している。 それをスキルシートにて共有している。	
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	6		日々のおやつや食事、おやつ買い物プログラムでは支援員二人体制でチェックしている。	
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	3	3	年間計画を作成し研修や訓練を行っている。	耐震構造等に不安があったために施設を移転しました。現在、新施設にて安全に配慮した支援を目指し指導員が中心となってルールを作成中です。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	3	3	避難訓練では保護者と災害時の連携が図れるように必ず途中経過をリアルタイムで伝達している。	安全確保に関して更に認知を上げる活動をしていきたい。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	6		ヒヤリハット発生時には報告書を作成し、情報共有し毎月の会議時に再発防止に向けた話し合いを行っています。	
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	6		年に一度虐待防止についての研修を行い、月に一度虐待防止委員会で話し合いを行っている。	
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	6		月に一度は身体拘束防止委員会を開催している。対象児童について事例を話し合い、必要な場合は保護者に丁寧な説明を行い、同意書をいただいている。		